

教育研究創発国際研修における学術活動報告書

令和6年12月13日

氏名 山口 哲司

所属 比較教育社会学 コース

指導教員名 本田由紀

1. 研究課題 高校生の職業希望と進路選択の関係
2. 報告する学術活動の実施期間 令和6年12月5日 ~ 令和6年12月6日
3. 日本学術振興会特別研究員 (DC) の現在の採用状況 DC1 DC2 採用無し
4. 学術活動
 - 国外 国内
 - ①英語論文公表
 - ②研究科教員の研究プロジェクト参加
 - ③フィールドワーク
 - ④国際会議 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑤研究会 (研究発表 運営補助 出席のみ)
 - ⑥研究指導委託
 - ⑦留学
 - ⑧国際研修
 - ⑨国際インターンシップ
 - ⑩その他 (具体的に:)

5. 学術活動実施の概要

※上記4で選択した学術活動について具体的に記載してください。括弧内の概要を必ず記載してください。

- ① 英語論文公表
(著者、発表論文名、掲載誌名等、発表年月巻号、発表年月日等、論文内容の概要)
- ② 研究科教員の研究プロジェクト参加
(プロジェクト名、代表研究者名、自身の具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、プロジェクトの概要)
- ③ フィールドワーク
(調査先機関等、国名・都市名、具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度、調査先の概要)
- ④ 国際会議
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、学会・会議名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑤ 研究会
(研究発表・運営補助・出席のみ の別、研究会名、国名・都市名、発表題目名、発表形式(口頭・ポスター等)、発表年月日、発表内容等の概要)
- ⑥ 研究指導委託
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究、研究テーマと受入教員、受入期間(年月日)、具体的な研究活動、研究発表内容等の概要)
- ⑦ 留学
(派遣先機関、国名・都市名、受入身分及び研究科、受入期間(年月日)、具体的な履修状況、研究発表内容等の概要)
- ⑧ 国際研修
(プログラム名、派遣先機関、国・都市名、派遣期間(年月日)、プログラム概要、研究発表内容等の概要)
- ⑨ 国際インターンシップ
(プログラム名、派遣先機関、配属部署、国・都市名、派遣期間(年月日)、具体的な活動、プログラム内容等の概要)
- ⑩ その他(具体的な活動、活動期間(年月日)及び活動頻度等の概要)

学術活動区分 (①～⑩を記入)	④国際会議(研究発表)
<p>【学会・会議名】 SSM 国際ワークショップ</p> <p>【国名・都市名】 日本・東京</p> <p>【発表題目名】 Dream-Pursuing Types of Occupational Aspiration and High School Students' Career Choices</p> <p>【発表形式(口頭・ポスター等)】 ポスター</p> <p>【発表予定年月日】 2024年12月6日</p> <p>【発表内容等の概要】 本研究では、高校生の夢追い職業希望(歌手や漫画家など)と進路選択の関係について、「子どもの生活と学びに関する親子調査」を用いた分析をおこなう。また、日本における「夢追い」の議論と、海外で蓄積のある職業希望と学歴のミスマッチに関する議論との関係や、そうしたミスマッチを日本で検討することの意義についても試論的に論じる。</p>	

- (注) ① 年月日は西暦で記入してください。
- ② 英語論文発表については報告する学術活動において発表又は受理されたもの。
- ③ 上記に記載しきれない場合は、ページを追加しても差し支えありません。
- ④ 複数回の学術研究活動による報告の場合、適宜本ページを追加し、2つ目以降についても必要な内容を網羅してください。

6. 学術活動による成果

※報告する学術活動について、教育分野における国際的リーダー人材の育成とその研究成果を海外に発信することを目的とした教育研究開発国際研修の趣旨に照らし、その成果を具体的に記載してください。学術活動により得られた自身の研究課題につながる成果についてもわかるように記載してください。

※本欄に書ききれない場合、ページを追加しても差し支えありません。

本研究では、日本の高校生の夢追い職業希望（歌手や漫画家など）に着目し、そうした職業希望をもつ生徒がどのような進路を選択しているのかについて分析をおこない、ポスター発表をおこなった。分析の結果として、高校3年生時点で夢追い職業希望をもつ生徒は、高校ランクや学科に関係なく遍在しており、また夢追い以外の職業希望をもつ生徒や職業希望をもたない生徒と比較したとき、専門学校への進学者が多いのと同時に、ランクの高低を問わず四年制大学に進学する生徒が半数以上みられたことを発表で共有した。

ポスター発表では、国外からの参加者を含む多くの大学院生、先生方から有益な示唆を得た。夢追い職業希望と親職業との関連性をみるという可能性や、夢追い職業の特性自体が、先行研究が蓄積されてきた年代に比べて変化しつつあるのではないかといった示唆を得た。とりわけ後者については、夢追い職業でも実際には大卒でそうした職業に就いているというケースも多くみられる可能性があり、夢追い職業自体が高学歴化しているという労働市場の変化がみられるのかもしれないといった指摘を受けた。他方で、高等教育への進学率自体が上昇するなかで、「夢追い」であっても大学進学を選択するというにはある意味で当然の選択である可能性もある。さらに夢追い職業と大学進学の間連性が、単に使われているデータの違いなのか、より実質的な時代変化による違いなのかについて腑分けしたいといった示唆を得た。また、研究として組み立てる際に、海外の文献等で「夢追いでもよい／よくない」といった議論が会った場合に、そこにカウンターしていくような議論の組み立て方ができる可能性についても議論した。

今回の報告では以上のような示唆を得たことで、本研究を論文として組み立てる際に想定すべき論点のいくつかが明確になり、かつ本研究を国際的に位置づけ、発信するための示唆を得ることができた。